

「悲劇繰り返さない」

後輩生徒ら750人
銃器根絶の誓い

八王子市で集会

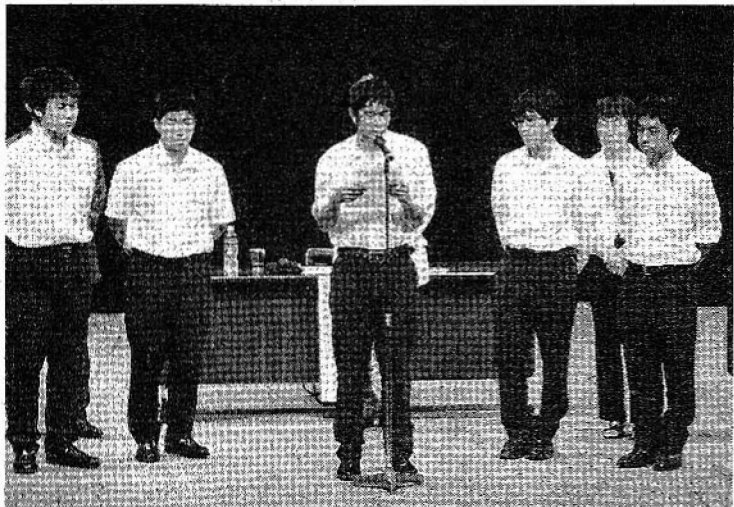
東京都八王子市のスパー「ナンベイ」で女子高校生ら三人が射殺された事件が三十日で発生から十五年を迎えるのを前に、警察庁と警視庁などは二十三日、「銃器犯罪根絶の集い」を同市内で開いた。

犠牲になった私立桜美林高校二年矢吹恵さん(当時16)の同級生で中学校非常勤講師の大越孝一郎さん(31)が基調講演。「日本の若者には、銃は格好良いというイメージがある。映画や漫画などを

通じてしか銃について考えていないと思う」と語り、「銃は人

を殺すための道具。そういう意識を持ってほしい。事件が起きてからでは遅い」と訴えた。

その後の討論会で



銃器犯罪根絶へのメッセージを読み上げる桜美林高校の男子生徒(23日、東京都八王子市で)

は、米国で一九九二年十月、留学中に射殺された服部剛丈さん(当時16)の母美恵子さんも参加。美恵子さんは「私は裁判が終わって心の整理がついた部分もあった。けれど(ナンベイ事件で犠牲になった)三人の遺族はまだ事件が解決すらしていない。早期解決してほしい」と語った。集いは、ナンベイ事件が発生した九五年から毎年開催され、ことは矢吹さんの後輩の桜美林高の生徒ら約七百五十人が参加。男子生徒七人が「私たちの社会生活に必要なない銃で悲劇が繰り返されている。平和な社会を次の世代に引き継ぎたい」とメッセージを読み上げた。